

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530032		
法人名	医療法人健山会		
事業所名	グループホームすみれ・梨の木 A棟		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町字梨木西44-1		
自己評価作成日	令和2年12月19日	評価結果市町村受理日	令和3年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者様一人一人に寄り添い、人生の最後の場面が安心して、楽しく過ごせるようにと考えています。食事も手作りで、お誕生日には、入所者様の希望の物を作って、ケーキを食べて皆でお祝いしています。ホームで過ごせて良かったと思って頂ける様にスタッフ全員で頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者の楽しみである食事に重点を置き、調理担当のパート職員を雇用して、食材の購入・献立に利用者の意向を十分に取り入れ、彩り・味・柔らかさに配慮し手作りにこだわり、利用者には喜ばれる食事の提供に努めている。また、職員が利用者の中に入り世間話などをしながら一緒に同じ食事をするなど利用者と一緒に楽しい時間を共有し、利用者とのコミュニケーションや関係を深める機会になっている。
2. 事業所の看護師に加え、隣接している同法人小規模多機能型居宅介護事業所の2名の看護師の協力のもと、介護職員とともに看取りを行っている。看取りについては協力医が熱心に取り組んでおり、家族・職員・担当医の連携体制がしっかり整い、エンゼルケアを職員が行うなど最期まで利用者・家族の安心・満足な看取りが実施できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で考え出しあったものから選び、その理念に基づいて実践している。	昨年3月にそれまでの理念を見直し、全職員で話し合い各自が考えた項目から選んで新たに策定した。理念は玄関に掲示したり職員連絡帳の表紙裏面に貼るなどし、浸透を図っている。また、管理者等が日頃の業務で、理念に立ち返って支援するよう指導して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々に慰問して頂き、交流したりしている。	現在はコロナ禍で自粛中であるが、事業所の夏祭りなどに地域住民を招いたり、中学校の職場体験・フラダンス・民謡・そば打ちなどの地域の様々なボランティアを受け入れ、住民との継続的な交流を図っている。また隣接の同法人の小規模多機能型居宅介護で開催しているカフェに利用者とともに参加して、地域の高齢者等との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流の場を設け、ふれあいの場として活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	参加者に利用状況、内容を報告し、課題がある場合は、その課題の改善策などの意見をいただき取り入れている。	会議では事業所報告の後、委員から意見や質問が出され、運営に活かすように努めている。しかし、コロナ禍で法人本部の指示により、昨年8月の開催以降会議を中止している。なお、昨年委員には避難訓練に参加してもらっており、コロナ終息後には継続して年1回は参加してもらう予定ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	勉強会などに積極的に参加し、情報交換を行い、協力関係を築いている。	町役場の職員が運営推進会議の委員になっており、本人の都合がつかない時には代理の職員が出て、欠席することなく必ず出席している。その都度、情報提供や助言をしてもらっている。また、何かあれば管理者が出向いて相談を行っており、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施して、3か月に1回は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。集まらないときは資料を配り目を通すようにしている。	管理者・主任・副主任などで構成する身体拘束防止のための委員会を3か月に1回開催し、全体会議で内容を伝え、そのあと研修を実施して周知徹底を図っている。また、スピーチロックについては業務の中で管理者や主任が指導を行い、さらに、全体会議で職員で話し合い、互いに注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強したことをスタッフ同士で話し合い、注意し合いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講習会があれば参加して理解し、職員に伝達し合い活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族等に対して、細かく説明を行い、心配な事なども伺い、納得するまで話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの不満や苦情に対し、話し合いの機会を設け、改善策を取り入れている。	利用者の意見は、日常の会話の中で把握するように努めている。訴えがあった場合は利用者の話に耳を傾け意見を把握して、職員間で情報共有を図りながら対応している。家族の意見は面会時に声掛けを行い、話しやすい雰囲気づくりに努め、出された意見は運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で自由に意見が言える環境を整えている。	毎月の全体会議で職員の意見を聞く時間を設け、日頃の業務の中でも職員の意見を聞くようにしている。定期的な個人面談は行っていないが、必要に応じ実施して意見を聞いている。出された意見や提案は前向きに受入れ実施し、問題があれば見直すこととして、実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な話し合いの場を設け、状況報告をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の機会を増やせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流や勉強会が出来るネットワークに参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の不安、心配な事を解消できるよう話し合いの場を設け、安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事、不安な事は遠慮なく相談して頂くよう声掛けし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が不安なく安心できる支援は何か見極めるため、話し合いを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中の会話で、本人の経験や体験、思いをくみ取って、共有できる関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化等に気を配り、家族と連絡を取り、情報共有出来る関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思い入れのある方や場所を把握し、これからも関係が途切れないよう支援に努めている。	利用者との会話からなじみの場所等を把握し、コロナ禍前は行きつけの理美容店や地域のサロンへ職員が付き添い支援してきた。また、毎月事業所だよりに利用者の写真や担当職員による手書きの便りを添えて家族へ送付し、関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、不安なく安心した毎日を過ごせるよう、見守り気配りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	遠慮なく何でも相談して頂けることを説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常において本人の希望を把握し、困難な場合はこれまで歩んできた人生を把握し、本人の立場に立ち検討している。	利用者との会話を通して、思いや意向の把握に努めている。特に、居室や浴室でゆっくり会話をしながら思いや意向を把握するようにしている。会話が困難な利用者は、家族などの情報をもとに表情やしぐさなどから利用者本位に推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より、これまでの人生の歩みや生活環境など情報を頂き、より良い生活を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を観察し、心身状態の変化を職員の間で情報共有して、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を観察しながら把握し、家族からの要望を伺い、話し合いながら介護計画を作成している。	ケアプランは、ケース検討会において利用者や家族の希望をもとに各ユニットの職員全員で話し合った内容を居室担当者がまとめケアマネジャーと協議して、その人らしい生活が実現できるよう作成している。また、モニタリングもケース検討会で実施し、利用者の状況により3か月又は6か月ごとにケアプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をケース記録に記入し、職員間で話し合い改善策を取り入れ、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の生活状況に合わせ、不安、心配のない必要なニーズに応じ、対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	親しくしていた地域の友人達に、気軽に来て頂いたり、今までの関係を継続しながら安全な生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にスタッフ同行か、又は家族が同行し受診している。急な体調不良時は家族に連絡し対応している。	入居時に、かかりつけ医及び事業所の協力医の受診・往診について説明し、受診医を利用者・家族に選択してもらっている。受診同行は基本的に家族だが、家族が遠方在住等の場合は職員が同行し、医師及び家族へ報告・連絡を密にし、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気付いた事は、看護師等に伝え、適切な受診、処置を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	以前の既往歴の情報を提供し、退院時は診療情報提供書を病院から頂き、対応するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じ本人の状況について説明を行い、不安や心配があれば、その都度相談の場を設け、話し合いをしている。	契約時から重度化や終末期の方針を家族と繰り返し話し合い、協力医を中心に事業所の看護師・職員が看取り計画書に沿って看取りを実施している。家族の付き添い・宿泊も可能であり、利用者の状態に応じ夜間は緊急連絡網で職員が応援に入っている。エンゼルケアも職員が行い熱心に看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを含め、急変した時の対応が出来る体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、水害・火災・地震・火山とパターンを変え、避難訓練を実施している。	毎月、火災・水害・地震・火山と想定を変え避難訓練を行っている。また、年1回消防署立ち会いの訓練を行っている。更に個々の居室入り口のネームプレートには広めのヘアバンド(避難時煙を吸い込まない様マスクの様に着ける)と避難優先順位を示すピンク・黄・青の造花を留め、避難後は花を落とす等工夫した対応を行っている。	毎月、A棟・B棟・小規模多機能合同で避難訓練を実施しているが、実態に即して年に数度は個々の事業所独自の訓練を行うことや事業所へ出入りのボランティア・地域消防団等にも参加を依頼し協力を得ながら避難訓練を行うなど地域との協力体制の構築が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に、失礼のない声掛けを職員同士で注意し合いながら対応している。	利用者それぞれのプライバシーの確保と自尊心の尊重を心がけ、馴れ合いにならない様にお客様意識を持って接している。職員はトイレ誘導時などは大きな声にならないよう注意し、筆談や言葉遣い、声のトーン等工夫して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自ら希望される思いを、寄り添いながら声掛けし、遠慮なく話して頂けるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切に希望を伺い、自分らしい生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を受け、理美容等の対応を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食べたものを聞いたり、作り方を教えて頂いたり、一緒に食事を味わい、楽しい食事になるよう支援している。	ユニットごとにメニューは異なり、利用者から希望のメニューを聞いたり、職員が調理の仕方を利用者に教えて頂いたり、食事が楽しみになるよう支援している。おやつや行事食も同様に、豪華な仕出しお弁当のように仕上げるなど、訪問者にも好評である。片付けや食器洗いには利用者も参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はその人に合わせ、ミキサー食・キザミ食と状態に合わせ対応し、一覧表に記入して摂取量の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアを行い、本人の力に応じ介助を行っています。就寝時は義歯の消毒も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、自立又は介助の方のパターンを把握し、声掛けしてトイレ誘導をしています。	排泄チェック表を作成し、利用者ごとのパターンを把握し自尊心に配慮しトイレ誘導している。その繰り返しにより2名の利用者は声かけしなくてもトイレに行く様になった。他の利用者も排泄の失敗がなくなり、オムツや尿取りパットの使用量が減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りヨーグルト(バナナ入り)を提供したり、排泄チェック表の記入を確認し、水分摂取や運動の声掛けをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を伺い、無理のないゆったりとした入浴に努めている。	基本的には好きな日に入浴して頂いていたが、入浴希望の利用者が少なく、最低週2回の入浴になっている。体調によりシャワー浴や清拭の場合もあるが、無理なくゆったりとした入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに沿った支援をし、自由な休息を得て安心出来る事に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を把握し、服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の生活歴や好みを把握し、気持ち良く生活出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人の希望される事柄を伺い、買い物やドライブ等、外出支援を実施している。また、家族と出掛けられるよう支援している。	例年であれば買い物外出を始め、四季折々に外出支援を行ってきたが、コロナ禍で中止している。そのため陽気のいい日にテラスでのティータイムで外気浴支援を行っている。また、職員は利用者が楽しめるよう事業所内で出来る様々な行事をたて、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額は事務所預かりとし、本人の状況に応じ対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話を掛けたり手紙を書いたり出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心してゆっくりできる環境づくりをし、1か月毎に飾り付けを変え、季節を感じられるよう工夫している。	自然光がふんだんに入る共有スペースには、ソファー及び畳のくつろぎの場を設けている。室内は利用者・職員の共同作品が季節感満載に展示され、利用者は好み場所でゆったりと過ごしている。トイレや浴室も介助に適した広さと安心感ある環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの向きを変えたり、席を変えたり、本人の状況に応じ、居室で休まれたり、思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	本人の思い出の品や好みの物を置いたりするなどして、その人らしい一人ひとりに合った居室にしている。	自分の部屋がわかりやすく安心できるように、居室入り口に写真・名前を貼っている。衣類及び棚やタンス、位牌や遺影・家族写真など馴染みの物を持ち込み、利用者の個性及び安全性に配慮した移動動線を職員と一緒に考えて家具等を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じ、安全性を確認し、不安のない生活を送れること。出来る事は自分で出来るよう支援している。		